

ボギボーン

南部中・1 今泉紫野

ボギボーン

アクセントは「ギ」におく

これはいつでも使える

魔法の言葉

使うと笑顔になれる

素敵な言葉

ボギボーン

ある日 突然

友達の弟に言われた

なんだそれ

意味を聞いてみたけれど

意味はないらしい

わたしと親友は

言葉の響きを楽しんだ

二人だけの特別な感じがした

ボギボーン

親友とは小学校で出会った

いつも一緒だった

クラスが離れても

そう言いあうことで

つながっていられた

五年生のとき

わたしたちの間に

みぞができてしまった

誤解に誤解が重なった

周りの目が気になったりして

小さなすれ違いは

どんどん大きくなっていた

あんなに使っていたのに

それだけでつながっていられたのに

六年生になった

お互いの誤解が解け

わだかまりも消えた

ボギボーンの復活だ

また言える日がきたこと

当たり前が戻ったこと

心は雲一つない青空のようにすっきりした

ボギボーン

中学生になったわたしたち

クラスは離れても

つながりの強さは変わらない

他の人には

ただのよくわからない言葉

でも

わたしたちには

とても大切な言葉

ボギボーン

ボギボーン

私は今日も笑顔で親友と話す

意味のわからないやりとり

でも

この意味のわからないやりとりの中に

私と親友の絆を感じる

これからずっと親友だよ

ボギボーン

3・9

他の人には、全く意味のわからない言葉。しかし、二人の間では心が通い、大切な時間を共有する魔法の言葉。その特別さが、親友とよべる証となっているのかもしれない。

(指導 田中克弥)